



古今學雅抄

十九
雜
躰





古今和歌集卷第十九

雜解

短歌

古今和歌集のいふむ人あまきと。おとらてのいふむいふも也
 風神乃をまらり。短歌のいふむいふも。おとらてのいふむいふも也
 いふむいふも。短歌のいふむいふも。おとらてのいふむいふも也
 いふむいふも。短歌のいふむいふも。おとらてのいふむいふも也
 のいふむいふも。短歌のいふむいふも。おとらてのいふむいふも也
 書よ。いふむいふも。皆長歌とあり。千載集よ。由
 集乃例をそそく。後成の短歌のいふむいふも。おとらてのいふむいふも也
 定家公のいふむいふも。おとらてのいふむいふも。おとらてのいふむいふも也
 定家公のいふむいふも。おとらてのいふむいふも。おとらてのいふむいふも也
 定家公のいふむいふも。おとらてのいふむいふも。おとらてのいふむいふも也



よか蝶とちりして...
と...
一物乃...
撥晋...

芦乃...
おひ...
ひら...
おち...
おの...
人...

申...
よ...
海...
人の...
は...

お...
た...
せん...
ん...

す...
あ...
ち...

忠岑の宅國大納の隠りしなり。いふもたぬ府守の
名はありしなり。此垣よりとれぬもるなり
とて来りしなり。外藩よりみりしなり。内裏乃此垣
より外藩よりみりしなり。此垣よりとれぬもるなり
とて乃この名をいふ。此垣よりみりしなり。いふも
とて乃この名をいふ。後府藩士たるなり。一府をいふ
なり。いふもるなり。忠岑の宅國大納の府守の
番長たるなり。忠岑の宅國大納の府守の
なるなり。此垣よりみりしなり。いふもるなり
とて乃この名をいふ。後府藩士たるなり。いふも
長なる。新垣の修長序よとあり。乃あり。いふ
なるなり。いふもるなり。後府藩士たるなり。いふも

あはれをいふなり。いふもるなり。後府藩士たるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。
いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。いふもるなり。

忠岑の宅國大納の府守の

法入のく見むと也 文集曰海中三神山
山上多生不死藥 葶藶草の古きとも
名をよみくはくすなり也。三神山の蓬萊 方丈

瀛洲 あまのつくり

きりゆくおぼろけ乃るもまぼろしにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかばの
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば

あまのつくり

三神山

まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば

あまのつくり あまのつくり

まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば

海草抄下月八日 崩三十六

伊勢

まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば
まぼろしにみゆかばにみゆかばにみゆかば

雨乃ろあはるりたり

二の節の乃ろあはるりたるは
乃ろあはるりたるは
乃ろあはるりたるは

龍潜舟

龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は
龍潜舟の舟は

龍潜舟

龍潜舟

梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは
梅乃ろあはるりたるは

草紙抄

草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは
草紙抄の乃ろあはるりたるは

草紙抄

みまもや。おれはあつゝの文章はたして。又そのまじりくはたり
おのれはあつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝの
まじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。

肝子 証の字也

元河内新直

あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。

傍心通照

おのれはあつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。

あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。

傍心通照

あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。
あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。あつゝのまじりくはたり。

いづれつとて。女よそとてしりり

花とみくんととて女をむくつとて海乃のまはれ
ももるんととて女をむくつとて海乃のまはれ
ももるんととて女をむくつとて海乃のまはれ
ももるんととて女をむくつとて海乃のまはれ

實平乃古時とて乃の歌一合の歌

在原のむね

秋風はちかひぬじ葉はしりさかてよとてつとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて

まうくつとて乃はちかひぬじ葉はしりさかてよとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて

あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて

清原あやめ

あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて
あはれよほいほいぬじあはれつとて海乃つとて

とてまゝにうゑるるをいふは

歌

いふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

とてまゝにうゑるるをいふは

いしはるる

あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに

あひらきしむる

あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに

あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに

あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに

實平の時時いしはるるの事合の事

あひらきしむる

あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに

あひらきしむる

あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに
あひらきしむるに数もあはるる人いしはるるに

あひらきしむる

まゝ乃即ちのまゝにたゞしきまゝに
 けり此野は妻をうへて維の
 とし羽をほろくともたゞしき
 落るんふよむあり。まゝに
 もいぬをいつたれを妻を
 行基イサキ

山乃ほろくとついでに父
 是ハ一切乃男おとこ子この父一切乃女むすめ人ひとの生なまくれ
 母とよこあつたや

まゝ乃即ちあつた維い子これ
 けり此野とをうへて

まゝに

船の即ち妻もた麻のこ
 あつた麻よこ一なるは
 ことつらあつたひり
 を不審とて也。たつた
 一説もいれまゝのうへ

刀の糸

蟬乃のひりよこ
 せしれこ乃ひりよこ
 よらる物よこたつた
 いせ

まゝに

かゝれぬのひりよこ

隠居よあつら福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは
多てまつらぶとぞ我くもすまらむとせむ

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは
菅根なるはなれとてこころはなほとくさるる

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは
はなれなるはなれとて物もたはさしとてはな

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは
あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは
あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは
あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは

玉輝 玉輝

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは

あつらひよ福あつらひよそあつてまゐる人のおちをばは

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

我々の世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、
世に於ては、

まもわらぬとて細と見侍らんくははらうとてむと見侍た
打もびと鼻をぞひらいてはなまはらふそよ妹がうきこ
かきあはるる人かきあはるる人

如深しんを頼もむ人かきあはるる人かきあはるる人
人かきあはるる人かきあはるる人かきあはるる人
うと今さらそれをもあはれもむ人かきあはるる人
うとむ也。おのをさ。おのをさ。おのをさ。おのをさ。物也
飽を度よのさか

くうと我がはらふ弱もわやあはるる人かきあはるる人
人よらうあはるる人かきあはるる人かきあはるる人
をいふもあはるる人かきあはるる人かきあはるる人
あはるる人

あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の

あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の
あはるる人のあはるる人のあはるる人のあはるる人の

吾らわね海乃れ此のあまきや人のんをたてしうやまあ
 吾らの時やあな海乃らよむかしてまむた物ありし
 事乃あま海一や人のころ乃いつあつとよくんく
 登じつと連。海回しあまきやとよんもあまれ
 ちれねを我らひ乃ちれぬふとせり

伊勢

誰能もなうら乃橋つくる也とま我方を何よ申と人
 ちはちよあまあうら乃橋さうりぬ事しつとた
 ちよあまうらく作れむいあうら乃と何よ申と
 と也。當集雜記よ
 世にありわら物ははの必乃あまれ橋と我らりせり

といふは中よて。海とに橋をはくころあませめて
 我方のもとるたうをいんとき。橋もつくとり
 ちはくぬとをばつとよあうら。誰能もりあ
 ちと也。今まあま乃らうりもあまいんもえり
 ちと事いんもあまらぬ。一。橋乃時。國使
 云。弘仁三年六月遣使造長柄橋とあまを修理を
 弘仁三まより。史事乃時。時よいんもあま。七十ち
 ちと

後人志

ちとあまのふそりうらからあまのころあまのあま
 人のあまのまうらみあまの産乃あまのあまのた。何
 うらよたうかあまのいん。ちとあまのあまのあま

乃よ記人... 御書

御書

あつた... 御書

くそ 塚 源つらら女

あつた... 御書

あつた... 御書

あつた

あつた

安倍清行の長女

あつた... 御書

大捕

源もさくら女

あつた... 御書

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a personal document. The text is written on aged, slightly stained paper. It begins with a salutation and continues with several lines of prose. The script is dense and characteristic of the Edo period.

Handwritten text in the left margin, possibly a date or a reference.

Handwritten text in the left margin, possibly a date or a reference.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a personal document. The text is written on aged, slightly stained paper. It begins with a salutation and continues with several lines of prose. The script is dense and characteristic of the Edo period.

Handwritten text in the right margin, possibly a date or a reference.

Handwritten text in the right margin, possibly a date or a reference.

かひあさくまのそらまはしと也。五ノ川を桂川たりと
うひまやき乃あひたり。猪叫山峽と云氣なり
日ひくく日ひく也。猪をましと云。申字なり
梵語ましと云。目本語も林也。又
猪乃名をたれこと云。目本語もましと云。社
あま又そのまらるる也。

野

よかん人志

世といふものなり。おきよらと云。麻乃衣也
世といふものなり。おきよらと云。麻乃衣也
ひのよと云。麻乃衣也。おきよらと云。麻乃衣也
はもたり。世といふ人の衣。むしと云。麻乃衣也

いさる甲斐深よと云。同事なり。おきよらと云。麻乃衣也
おきよらと云。麻乃衣也。おきよらと云。麻乃衣也
おきよらと云。麻乃衣也。おきよらと云。麻乃衣也
おきよらと云。麻乃衣也。おきよらと云。麻乃衣也
おきよらと云。麻乃衣也。おきよらと云。麻乃衣也
おきよらと云。麻乃衣也。おきよらと云。麻乃衣也

